

要介護認定を用いた 認定書・証明書を発行

税申告用

市は、税の申告で控除を受けるために必要な書類を次のとおり発行しています。

■障害者控除を受けるための認定書

65歳以上の要介護認定者は、市の認定書により、要介護状態区分に応じた障害者控除を受けることができます。控除には2つの区分がありますので、要件を確認して申請してください。

※印鑑は不要で、手数料はかかりません

【対象者】

①特別障害者…平成26年12月末（26年中に亡くなった人は死亡日）時点で、要介護状態区分4以上の人、または主治医意見書により寝たきり状態であることが確認できる人

※身体障害者手帳1級・2級の方は、手帳の提示で控除を受けることができるため認定書は不要

②障害者…身体障害者手帳の交付を受けておらず、26年12月末（26年中に亡くなった人は死亡日）時点で、要介護状態区分1から3までの人

■おむつ代の医療費控除を受けるための証明書

傷病によりおおむね6か月以上にわたり寝たきりで、医師の治療を受けている人のおむつ代は、医師による治療を受けるため直接必要な費用として、医療費控除の対象となります。

【対象者】

主治医意見書により、寝たきり状態で尿失禁の可能性があることが確認できる人

①控除を初めて受ける場合…医師が発行する証明書（有料）が必要

②控除を受けるのが2年目以降の場合…市が発行する証明書（無料）で可

■申請書 各認定書・証明書発行の申請書は長寿社会課と各総合支所健康福祉課に配置

■問い合わせ・申請先 本庁長寿社会課介護認定係（内線263）、各総合支所健康福祉課

～2015年 農林業センサス～

統計調査にご協力ください

農林水産省では平成27年2月1日現在で「2015年 農林業センサス」を実施します。この調査は、食料の安定供給や環境の保全など、農林業の未来を築いていくための大切な調査です。県知事から任命された統計調査員が1月下旬から各戸にお伺いしますので、ご協力をお願いします。

■問い合わせ 本庁政策企画課統計係（内線441・443）

調査の内容をご紹介します



■基準日

27年2月1日

■調査の対象

農業や林業を行っている全ての世帯や法人など

■調査期間・方法

統計調査員が1月下旬に訪問し、調査対象の条件を満たしているか伺います。調査の対象となった場合は、調査票を配布しますので記入をお願いします。2月上旬に再度、統計調査員が調査票の回収に伺います。

■調査内容は統計以外の目的で使用しません

統計調査員は、身分を証明する「調査員証」を携帯しています。守秘義務がありますので、調査の内容が他人に漏れることはありません。

スケジュール

1月下旬
調査票の配布



2月1日(基準日)



2月上旬
調査票の回収

※センサス=全数調査

祝 百歳おめでとう



100歳のお祝いに満面の笑顔を見せるエツミさん

市は、12月に満百歳を迎えた2人に記念品を贈り、長寿を祝いました。
佐々木エツミさん（前沢区字駒水）は同区に生まれ、昭和10年に故・幸作さんと結婚。7男1女をもうけ、15人の孫と16人のひ孫に恵まれました。かやぶき屋根職人の夫を支えながら、子育てに追われたエツミさん。90歳ころまで、洋裁でさまざまなものを作っていたそうです。
エツミさんは、花がとても好きで、自分で育てた花をディスプレイのみなみに配って喜ばれていました。



家族に見守られ、パースデーケーキのろうソクの火を消すフユさん

千田フユさん（胆沢区南都田）は同区に生まれ、19歳で故・栄治さんと結婚。2男4女をもうけ、農業で生計を立てました。現在は孫12人、ひ孫24人に恵まれています。身の回りのことは全て自分でできるフユさん。草取りに出るとなかなか戻らず、次男の靖さん（74）が「家族で一番働き者」と言うほど。チラシを使った作品作りが趣味で、頭と手先を使うことが長寿の秘訣といえます。
お祝いに駆けつけた親族に「寒い中ありがとう」と優しく気遣っていただきました。

姉妹都市 掛川だより

海岸防災林強化に向けサミット開催

全国13市町長で政府への要望決議書を採択



シノポジウム終了後、海岸防災林で苗木3,500本の植樹に汗を流す市民たち

「森づくりを未来につなげる全国サミット&シンポジウム in 掛川」が11月28、29日に開催され、市民約1,200人が参加しました。

これは、津波の恐れがある全国の自治体に対し、海岸防災林の取り組み事例や課題、成果などを紹介し合い、防災力を高めようと掛川市が呼び掛け実現したもの。全国サミットでは、参加13市町長が政府に支援を求める要望決議書を採択しました。

シンポジウムでは、市内のNPO法人「時ノ森の森クラブ」が進める「希望の森づくりプロジェクト」の事例発表や福島県川内村長の講演も行われ、市民協働による森の再生の大切さを参加者で共有しました。